『図書館界』原稿種別の定義

2026. 9 . 27改定

1．論文

定義：「論文」とは，学術研究にふさわしい新規性，信頼性，論理性，有用性を有するオリジナルな著述とする。

種別：(1) 図書館学の分野における執筆者の歴史研究，理論研究，事例研究，フィールドワーク研究などの研究活動とその成果を明確に記した「原著論文」
(2) 図書館学教育の現場における教育活動とその成果を明確に記した「教育実践研究論文」
(3) 各種図書館現場における執筆者の実践活動とその成果を明確に記した「実践研究論文」
(4) 先行研究について整理し，体系的，批判的な評価，課題を明確に記した「レビュー論文」(総説論文) など。

要件：(1) 有意義な研究目的・課題，先行研究に基づいた当該研究の位置づけ，明確に定義された仮説と研究方法，正確な分析，詳細な検証，実証性・論理的整合性のある結論，新しい知見や開発につながる独創的成果・考察などの諸要件をほぼ完全に満たしていること。
(2) 倫理的な研究プロセスによって独自に創造されていること。

2．研究ノート

定義：「研究ノート」とは，「論文」と同様に，学術研究にふさわしい新規性，信頼性，論理性，有用性を有するオリジナルな著述とする。ただし，論文とは異なり，それらを高度なレベルで満たすことは要求されない。

種別：(1)「1. 論文」種別(1)～(4)に該当する優れた学術研究や実践研究への発展途上にある中間報告や予備調査
(2) 図書館学における研究展望，解説，問題提起
(3) 資料的価値の認められる独自の研究調査報告　など。

要件：(1)「1. 論文」要件(1)(2)を一定程度満たしていること。「研究ノート」において，より重視されるのは，速報性，先駆性，発展性，独自性などである。
(2) なお，掲載後さらに研究の進展があった場合には，過去の研究ノートの内容を発展させたものであることを明記した上で，新たに論文として投稿することもできる。

3．現場からの提言

定義：「現場からの提言」とは，図書館現場や図書館学教育の現場(以下，現場) からの視点に立った「実践報告」や有意義な「提言」とする。「論文」や「研究ノート」のような学術性や研究活動は要求されない。

種別：(1) 現場に軸足をおいた実践的，先進的な取り組みや独自の調査などについて報告したもの
(2) 現場での出来事や話題，知見，課題などを詳細に記したもの
(3)「エコー」欄よりも詳細に現場からの意見や有意義な提言を表明したもの　など。

要件：(1) 重視されるのは，「現場」での実践や知見であり，また「現場」における話題性，有用性である。

4．エコー

定義：『図書館界』掲載記事，研究大会やセミナー等，日本図書館研究会への意見・感想・要望，質問，また図書館界に関する話題・情報提供など，会員からの声を表明する場とする。

5．書評

定義：原則として刊行後２年以内の図書館・図書館情報学及び関連領域に関する書籍を主な対象とし，内容紹介に留まらず，批評・論評を中心とするものとする。

6．新刊紹介

定義：原則として刊行後２年以内の図書館・図書館情報学及び関連領域に関する書籍を主な対象とし，内容紹介および概要を簡潔に提示したうえで，見解を含むものとする。